

第3回遠野市史編さん委員会 会議録

日 時	平成 28 年 5 月 29 日（日）13：30～15：00	
場 所	遠野市立図書館 視聴覚ホール	
出席委員数	10 人中 9 人出席	
出席委員	大橋 進 兼平 賢治 熊谷 常正 斉藤 利男 佐々木剛之 菅原 伴耕 藤田 俊雄 松本 武則 山影 勝美	
欠席委員	赤坂 憲雄	
事務局	小向 孝子	遠野文化研究センター部長兼市史編さん室長
	前川さおり	市史編さん室次長
	糠森 千明	〃 主任

(進行：前川次長)

1 開会

2 委員長挨拶

大橋委員長 昨年 6 月にこの委員会が発足して、ちょうど 11 か月になるわけですが、このような立場になり、この 1 年間非常に悩んでおります。10 年という計画が出されているわけだが、もう早くも 1 年経ったのかということを見ると、編さん事業の時の過ぎるのが早くて油断してられないなというのが感想。市町村史はある意味では地域住民の歴史認識に大きく関わる性格を持っていると思うので、地域の人々の歴史認識をどのように形成していくかを常に考えていきたい。そのようなことができるような通史、現代史にしていきたいと思っています。

3 報告

(糠森主任 資料にもとづき報告)

報告内容についての質疑なし。

4 協議

(1) 事業の進捗状況と今年度のスケジュールについて

(糠森主任 資料にもとづき説明)

- 大橋委員長 ご質問、意見を伺う。
- 佐々木委員 現代編で新しく設置する部会は、今までの調査研究員の会議とは別に設置するということになるのか。
- 小向部長 今は旧市村ごとに動いていただいております、年表の出来事について作業を進めていただいているが、それをまずは旧市と村のすり合わせが必要になってくるし、さらに歴史的な観点で助言、指導をいただきながら刊行前の作業をすすめなければならないと思っている。そのための現代編部会と考えている。今考えているのは現在の調査研究員と助言指導をしていただく先生を交えての会議と今のところは考えている。
- 大橋委員長 その他質問がないようであれば、事務局のほうに助言、ご意見をお願いします。今日の差し替え資料の事業進捗状況と裏面のスケジュールについては密接に関係すると思われるので、その辺を踏まえながらご助言願う。特に現代編に関して何かありませんか。実際に携わっている山影委員、何かありませんか。
- 山影委員 順調に進んでいると思う。
- 佐々木委員 昭和43年から53年頃までの自分で持っている資料と本を読んでみて、当時の宮守の状況が今の遠野市の状況に似ている部分があると思う。例えば広域行政としてゴミ、し尿の問題が出たが、現在も同じように北上まで持っていき処理している。昭和43年から53年頃は遠野高校宮守分校の廃止論が出たあたりだったが、現在も同じように高校再編のことが報道されている。その当時宮守では廃止論に対してグラウンド、校舎、屋内運動場を村で建設し県に無償貸与してきたが、なぜその頃村で県立学校にそこまでしなければならなかったのかを考えると、やはりそれくらいの覚悟がないと維持できなかったのかなど、資料を見ていて歴史は繰り返すというのを感じる。
- 大橋委員長 実際地元で生活しているとそういう感じはする。他に事務局で説明した進捗状況や今後のスケジュールについてご助言ありませんか。
- 山影委員 今の状況を進めていって、旧市と村が手分けして年表に記載されている出来事の資料収集をしているが、年表自体も整理されていないと思われることから、現在やっている資料収集作業をしながら次の段階で整理したいと考えている。今は行動することが大事だと思う。
- 大橋委員長 考えただけでは進まないということですね。
- 山影委員 そうですね。
- 佐々木委員 あくまでも、遠野市史の流れがあるのだから先行して作業をやって良いと思う。そこに若干宮守の内容が入ってくるのではと思う。
- 大橋委員長 お互い助言しあいながら進めているということですね。
- 山影委員 今は助言するという段階ではなく、遠野班、宮守班がそれぞれ作業を進めるということが大事だと思う。
- 小向部長 今それぞれに、遠野班と宮守班で作業をしているが、年表の出来事を大項目、中項目、あるいは年表だけで良いのではというような分類はしている。分類内容も例えば産業、文化・芸術、あるいは交通など差もあるので、

その辺のところを合わせながら、項目立てでどうなのかという全体のバランスも次の段階では必要なのかなと思っている。調査研究員の皆さんには一生懸命取り組んでいただいている。それから年表は広報等から作成しているが、良いことばかりである。そうではなく例えば市を二分して争った出来事など、そのようなものもきちんと載せなければならないということもあり、そのようなことの洗い出しも今後必要になってくると思う。そういった中で調査研究員の皆さんでは大変な作業になってくるし、きちんとした指導助言をしていただける先生をとということで考えている。

大橋委員長 現代については、とにかく資料収集をして、執筆項目検討などに展開をしていっていただきたい。

熊谷委員 年表を作っていく際に今の時点で、これは必要ないなということはなさってないですか。

山影委員 いや、あります。いずれそれぞれの旧市、村で年表を作った。その年表をそれぞれで小、中、大と振り分けした結果、旧市、村で合わない部分が結構ある。それは今すぐに合わせるのではなく、今は年表にそって資料収集をし次の段階で年表の整理をするつもり。

熊谷委員 あまり今取捨選択するよりは最初の段階はとにかくノミネートしておいたほうが良いと思います。

山影委員 はい、先生がおっしゃる通りだと思う。

大橋委員長 主観を交えずとにかくノミネートするというご助言。では、資料編、通史編について、これについては今日遠方からいらしている先生方が非常に関わりがあるので、ぜひご助言をお願いしたい。資料調査、解説、については今の進め方でよろしいか。斉藤先生いかがでしょうか。あまり中世史のほうはないかとも思うが。

斉藤先生 中世のものは新しいのはいないでしょう。

藤田委員 遠野南部家文書の調査について、斉藤科研で実施した調査報告書の中に暫定目録という形で収録されているのがあり、それをベースに遠野市の市史編さん室の皆さんと一緒に調査に行っている。先日の調査概要を簡単にご報告する。まず江戸時代に南部家文書の整理状況を記した目録類を撮影しました。また、腰物帳という南部家伝来の刀等の目録、御国替二付御道具帳は明治2年のもので、幕末を迎えて盛岡藩が白石に国替えを命じられた時期に遠野南部家盛岡屋敷でも引っ越しのために長持毎に道具を整理した記録、また東大資料編纂所で大正の始めに大日本資料の参考にするために南部家中世文書を借りた借用書、盛岡藩主の重直、利済、利剛が遠野南部家の弥六郎に宛てた端午と歳暮に対する礼状、盛岡藩主に代わって弥六郎が幕府の重臣などに進物を届けた際の文書、遠野家臣団のもとになったと思われる御支配帳や身帯帳が確認された。面白いと思ったのは、寛文4年の12月に盛岡藩と八戸藩が誕生した日に、盛岡藩4代藩主重信が弥六郎に宛てた書状があった。また明治6年から明治38年にかけての南部男爵家の家扶が書き留めた家政日誌があり、明治維新を迎えた後の遠野南部家の様子を知ることができる貴重な資料であることを確認できた。南

部家文書の調査を通して、これまで知られていた事を裏付けるということもあるし、新たに見つかることもたくさんあるだろうなと思っている。

大橋委員長

かなり貴重な資料もでてきているようなので、楽しみにしたい。斉藤先生のほうから中世史関係について、何かございませんか。

斉藤委員

市史編さん講座との関係で今回勉強したことを話しますと、今年の市史編さん講座を頼まれて、正直言うと遠野のことが不案内なことから遠野市史を使って勉強し始めたところ。結論的に言うと遠野市史が作られたのが昭和 49 年なので、その当時まだ東北中世史研究があまり進んでいなかった。それで今の次元から見直すと新しい解釈ができる部分がかかなりあると思う。新しい解釈をするには基礎となる資料が必要なのだが、文献資料はあまり残ってないが寺社関係や民俗関係の資料がかかなりあって、正直いうとその内容については感心した。データは非常に豊富である。従って若干の調べ直しは必要だが、中世の部分、古代や原始もそうだろうと思うが新しい叙述は十分可能だろうという感じを受けた。今日前川次長に案内してもらって事前に 2 時間ほど調査して歩いたが、それでも発見することがあった。どんなふうに通史編を新しく書くかとなると改めて構想を考えなければならないが、例えばということで少しお話しすると、市史編さん講座では何をお話しできるか分からないので、当初は中世の東北、その中での遠野の位置ということで、タイトルを付けた。少なくとも今まで調べたところで、3 つの話は遠野市史の書き換えということも含めて可能ではないかと思う。1 つは遠野にとって一番大事な問題であるが、遠野という地名がどういういきさつで生まれたのか、これは遠野の保という成立の問題であるが、旧遠野市史にはアイヌ語だと書いてあるが、これは間違い。アイヌ語は小地名以外にはないのだが、今我々がいるところは横田であって遠野は大地名、全体の総称なのである段階で遠野の保というのが作られた際に、全体を統合して和賀郡から分立して遠野の保が作られた、そして遠野という命名が行われた。そこにどんなことがあったのか、という歴史がそこにあって、それは恐らく安倍清原時代の開発を踏まえて奥州藤原氏時代の始めの時期に遠野の保ができるはずで、そこには水田開発と金山の開発があるはずで、もう一つ大事なものは交通体系、そういうものを踏まえた遠野の発祥というのがたぶん描けるだろうと感じた。2 つめの問題は、これは遠野市史で非常に驚いたのは早池峰信仰を今の次元で捉え直しが可能。前川さんからも色々とお話を聞いて驚いたが、鍵はここである。開山に関わった獵師の藤蔵という人物、後に出家して普賢坊になる、これは神の山であった早池峰が仏の山として、大体これは日本全国で 8 世紀、9 世紀から 10 世紀くらいにかけて起きる現象なのだが、そういう形で中世の早池峰山信仰が誕生するという事は分かるのだが、藤蔵という人が来内の人で来内は実は金山地帯、そしてそこには伊豆権現社があってそこに関わる人である、そして伊豆権現というのは熱海にある伊豆山権現、走湯山で、この走湯山というのは中世の東国で太平洋海運に大きな力を持っている神社だった。そして岩手県では吾妻鏡に出てくるので非常に有名だが、日

詰の高水寺にあった神社で、何でこれがこの地域に入り込んできたのかというのは謎だった。北上川流域には存在しない、恐らくそれは、遠野にあるということは気仙から気仙街道、遠野街道経由で日詰に入ってくるんだらう、これは北上盆地の交通体系を北上川一本で考えていた。平泉に関して言うとようやく平泉から気仙街道を通じて、それが最短ルートなのだと気付いたのだが、同じことが北上盆地の北部地域、つまり岩手、和賀、稗貫、紫波、この地域にとっても言えるだろう。恐らく重い物は石巻ルート、軽い物は陸送で気仙だろうと、そしてその時の中継地が遠野だろうと、だから遠野は陸上交通の結節点だというのは前から言われていたのだが、江戸時代よりも中世のほうがもっと比重が大きかった、そういう中で遠野の保も生まれ、早池峰信仰も生まれ、という話をしていたら前川さんから実は震災の関係で資料調査をしていたら気仙地方から漁民の人達の早池峰信仰についての資料が大量に出てきた、つまりそれは、従来は早池峰は遠野地区の水の神だと書いているが恐らくそうではないだろうと、当初は水の神だったが神仏習合以後、万人に開かれた仏であり神に転換するのだろう。そもそも開いたのは獵師、つまり殺生を事にする人、これは山の民、海の民、そして同じく殺生を事にする武士、このあらゆる部分に信仰が広がっていき全国区になる、そういう山なのだろうということが見えてきて、それは遠野の保の成立とも恐らく関わっている、これがたぶんテーマの2つめで、遠野の保、新しい視点での早池峰信仰、そしてもう一つは奥州藤原氏を滅ぼした後ここに入ってくる阿曾沼、阿曾沼の現地への入部は伝承は別として色々周囲の状況から考えると鎌倉末から南北朝で、資料も色々残っていて阿曾沼の系図を見ても鎌倉末まではどうも現地にいるようである。親綱の系統も。それでもう一つは横田城跡に今日行ってきたが、あのお城のあり方は鎌倉は無理である。どう見ても南北朝。南北朝にならないとあのような城は作らない。ただ、鎌倉期の遠野の代官所はどこなのかという問題もあって、あの辺は阿曾沼が入ってくるには良い場所なのだが、従ってそこにどんな歴史があったのかというのを新しい視点で描けるだろうと、というのが3つめの課題。4つめは室町期の阿曾沼発展の時期があって、それはこれからの課題だが、このようなことをこの1年間の中で勉強できたので、今の次元で通史編を新しい視点で書き換えるのは十分可能だろうと思った。

前川次長 先生のご指摘を受けて遠野にある早池峰山妙泉寺文書について、もう一度調査をする必要があるだろうと思っている。

大橋委員長 非常に貴重なご意見ありがとうございます。それでは熊谷先生から、原始・古代関係についてお願いします。

熊谷委員 今齊藤先生のお話のように考古学の分野でも特に沿岸部との関わりというのが強く出てきているのが大きな特徴で、気仙というより北方との関わりが遠野の中で大分見えてきたので、その辺を中心にしていけると思う。それから何と言っても宮守の金取遺跡を含めた遠野盆地の最古の痕跡をどのようにして核にしていくのかというのが、全国的にみても大きな柱に

なってくると思う。それから、市立博物館にある赤沢家文書、福田家文書というのはどういった状態なのか。一応簡単な目録はあると思うが、そうするとボランティアの人達が最初から整理するというではないのですね。

前川次長

そうです。

熊谷委員

はい、分かりました。

大橋委員長

兼平先生からもお願いします。

兼平委員

先ほど藤田委員のほうから遠野南部家文書についてお話があったので、私のほうからは、遠野南部家の方々が今回の調査に対して非常に期待されており、とても協力的に対応いただいているので、近現代を含めて悉皆調査を行い、私は近世の担当だが近世と近現代にきっちり線は引けないので、そちらのほうにも目配せして資料の調査をしている。それから御用留書についても作業が進んでいるし、古文書を読む会にも結構市民の方がいらしているとのことなので、すごく良いことだと思っている。近世の場合はどうしても地元の方の協力がないと作業が進まないで、このような形で進んでいけたらと思う。あとは古文書に興味を持つ方々から色々情報があがって遠野の町の文書がもう少し見つかってくると、領主だけではなく町の様子が出てくるかなというのがあるので、そこを期待したい。

大橋委員長

今の先生方からのお話で通史の基本的な軸は出来上がったなという感じを受けた。本当に10年後の刊行が楽しみだなと思う。

熊谷委員

鈴木重男文書というのにはどんなのがあるか。

兼平委員

今回見せていただいた際、これまで写しだけしかなかった寛永4年の原本が出てきて、点数自体はあまり多くなかったと思うが。

熊谷委員

大正時代の行政文書はあるか。

兼平委員

我々が見たのは絵画資料や墨書とか、古文書は何点かあったのだが、私が確認したもので原本が2～3点あり、そのうちの1点はこれまで編さんするときに写しを掲載していたのが原本が出てきた。

熊谷委員

鈴木重男は1920年代の岩手県文化財行政の中心人物として活躍した人なので、もしかするとちょうど郷土教育が展開するあたりの基礎を作った資料が出てこないとも限らないので。

小向部長

簡単な目録を見ると、実際郷土教育資料の基本となるような、そして民俗資料の基礎資料となるような項目だてしたものがあるようだ。恐らく大正期のあたりに、例えば「しょこしだんご」のようなかなり細かい項目があるようなので、それをまとめればきちんとした資料になるなという物から、先ほど兼平先生がおっしゃったような近世資料まで幅広い資料があるようだ。

大橋委員長

鈴木重男先生の資料もかなり貴重。

小向部長

松本委員が色々と古文書の解説をしていただきながら、発見があったので、発表をお願いします。

松本委員

以前、南部家墓所改葬の調査資料にも戒名だけで誰か分からない人がいたのだが、先日留書の抜書を整理していたらちょうど死亡年月日が同じ人

が出てきて、その人は側室なので名前も苗字も出てこなかったのだが、その人が特定できたという発見だった。

大橋委員長 現代編も通史編も充実した内容になりそうということが確認できたが、スケジュールや通史編内部構想についてご意見やアドバイスがありましたらご発言をお願いします。

菅原委員 一つ確認したいのだが、個人資料の情報収集とあるが、肝煎の名前が分かればその家に行って資料がないか聞けるのだが、何かないものか。

兼平委員 肝煎が分かれば大体目星がつくと思うが、把握はできてないので、個別に当たるしかないでしょう。

菅原委員 天保7年の百姓一揆の記録には下宮守と達曾部の肝煎が4人出てきて、屋号で出てくるのでどの家か分かる。

大橋委員長 その辺は地元でしっかり調べていきましょう。

斉藤委員 中世から近世の始め、遠野の小友地区が有数の産金地帯だったが、それに関する文献と現地の遺構はどの程度調査されているのか。遺構に関していうと大船渡には平山憲治さんという方がいて、私も本などをいただいているが、遠野に関する部分がない。恐らく小友にもあると思うのだが、そういうことを研究している方もいて、中央では一橋の池さん、柳原さんも一緒にここに来ているが、その辺のところはどの程度調査されているのか。

松本委員 今度博物館で金山の特別展がある。民俗の会で先日行ってきたが、ある程度分かると思う。

大橋委員長 金山の分布地図などもあると思うが。

菅原委員 国で持っていないか。私が若い頃に金山の跡地調査ということで、仙台の通産局の人を案内したことがある。宮守を案内して小友まで連れて行って欲しいと言われ小友まで行った。地図を見ながら山に入っていく、「ここだ」と言っていたので、通産局あたりにあったのではないかと思う。

熊谷委員 有名な話として日露戦争開戦時の気仙郡の大蔵省管轄地の話があり、そういった話は北上山系の南側に色々と残っている。菅原さんがおっしゃったような地図情報を色々なところで聞く。

大橋委員長 小友の地元の方は結構調べていると思う。

前川次長 小友町でいうと、荒屋番所であった家が幾分か近世文書を持っていたように記憶していて、中世に遡るものはその時は見つけられなかったことから、散逸を防ぐためにも民間の物になると思うが、そのあたりを中心にみていく必要があるのかなと思った。

大橋委員長 かなり具体的内容の話になっているが、編さん関係に関して気をつけたほうが良いことがあればお願いします。スケジュールについても再度確認したい。大体このような感じの進め方でよろしいか。

小向部長 通史編基本構想の件で、前回の委員会でも貴重なご意見をいただいた。まずとにかくどのような資料があるのかを収集するというお話はしたが、現代、近世、中世、それ以前ということで、各委員のご専門の先生方にご助言、ご指導をいただく機会が今後増えてくると思う。先ほど斉藤先生からも新たな見解が見いだせるというお話をいただいたので、その

ようなところを踏まえながら前回の市史とのズレをどのようにしたらよいかも併せてご相談させていただきたいと思うので、よろしく願います。

大橋委員長 民俗編のところに触れてないので、残りの時間で進めたいと思う。民俗編について事務局はいかがか。

小向部長 実際は会議資料に書いてある通りの寺院調査、石碑調査をしているところだが、歴史文化基本構想については文化庁の補助対象事業にもなっている。遠野市の場合色々な文化財等もあるが、これを今後どのように保存、活用していくのかということは市としてなければならない。市には国の重文、市指定文化財、遠野遺産制度などがあるが、遺産制度は地域が大事にしている物を継承していくという制度。これらをどのようにして継承していくかの計画がないと保存ができないという理由で、歴史文化基本構想に取り組むことになった。民俗の基礎調査をしなければならないというのはが、国の制度があるということで手を挙げたつもりがたくさん申込みがあったということで、今回はどうなるかというところである。これがもし採択されなくても、民俗調査だけは悉皆とまではいかなくてもしなければならないと考えている。風俗、習慣、特にも冠婚葬祭はここ10年の間にだいぶ変わっているので、そのようなことを覚えている方々がいるうちに調査をしたいと考えている。また、3月に地域出前講座として鱒沢地区で八将神信仰についての地域学習会をしたが、20人以上集まっていたとき色々な発言があった。というのは皆さん覚えているからだと思う。やはり今のうちにきちんと調査をしなければならないというのを感じた次第。ただ、時間、労力ともかかるので私達だけではなく文化課とも連携しながら進めたいと思っている。

熊谷委員 歴史文化基本構想では、場合によってはどこか地域を決めて悉皆調査を行うという方法はあるのだが。

小向部長 市全域は大変だろうと思うので、核を決めながら不足する部分を周辺調査するというのはいかがでしょうかと考えている。

菅原委員 宮守町の石碑調査は水原先生の調査をベースにしてやるか。

小向部長 はい、ベースになる資料があるのでとても助かる。

大橋委員長 その他、何かございますか。

(なしの声あり)

5 閉会（前川次長）